

八丈島 水産だより 4月号 2010



カツオ



フリージアまつりは4月4日まで

今、春トビ漁真っ盛り！ 八丈へおじゃりやれ！ トビウオをあがりやれ！

※おじゃりやれは八丈島の言葉で「いらっしゃいませ」、あがりやれは「召しあがれ」という意味です。

八丈島の山には大島桜が満開、山のふもとにはフリージアが咲き、八丈島らしい春を迎えています。島の小学校は、この4月に60名ほどのピカピカの一年生を迎えました。漁師さんは頑張ってトビウオやカツオの漁に出ています。トビウオは天敵から逃げるために400mも飛ぶのですが、着地点を間違えて海ではなく漁船に飛び込むこともあります。カツオの漁船に何と12匹ものトビウオが飛び込んできたことがあったそうです。



トビウオの島寿司



トビウオ

漁協女性部「水産庁長官賞」受賞！

おめでとう！

先月、東京国際フォーラムで全国の漁協の青年部や女性部の交流大会が開催されました。全国から47のグループが選ばれ、多くの大会参加者の前で自分たちの活動を発表しました。東京都からは八丈島漁協の女性部が選ばれ、代表者である山下部長が八丈島の絹織物



大会の様子

山下部長

である「黄八丈」に身を包み、都内の学校給食に八丈島の魚を届ける取組みを報告しました。審査員からは「八丈島の取組みは大会参加者に勇気を与えてくれた。」「この取組みが全国に広がってほしい。」など高い評価を受け、見事に水産庁長官賞を受賞しました。今後のさらなる発展が期待されています。

春は春トビ

トビウオは木にとまったか???



創作につき現実とは関係ありません。



かつて八丈島の中之郷では、春になるとトビウオの群れが押し寄せるように島に近づき、「漁船に追われて飛んできたトビウオが海岸の松の木に引っかかり、そのトビウオを拾い集めた。」という言い伝えがあります。その話は、八丈島出身の作家により「トビウオは木にとまったか」という童話としておもしろおかしく紹介されるほどです。八丈島のトビウオは、約30年前からほとんど獲れなくなった時期があります。しかし、近年では再び獲れるようになり、今年の春トビの漁獲量は3月中旬までで20万匹を越える勢いで、昨年よりも好調です。